

- ・子どもの日常生活の援助
- ・母子分離によって生じる児の不安の軽減。入院（長期）での児への遊びの提供。入院（長期）での児の心理・行動学的な変化や影響の観察。プレパレーション。
- ・親と分離された閉鎖空間で 精神的な健康を保つ役割
- ・患児の不安を軽減すると同時に親の果たせていない 日常生活の規律や集団生活のルールを教える役割
- ・医療者であるという記号（白衣）をもたないが、医療ケアの必要な児の判断ができる。母性の象徴。患児の側にたつて入院生活を送る児のケアに関わる役割
- ・日常生活のケア、遊戯、心のケア
- ・子ども（乳児）の生活面での育児についての教育（親への）。直接的な医療従事者にはこぼさない愚痴や不安を聴取する。生活面への援助。面会時間外の親がわり。子供たちのストレス発散としての遊び。想像力が劣りがちな入院生活で想像力の発達支援。

果たしている役割について

- ・児によって、そばにいたり、楽しむように工夫しているため
- ・保育計画とともに看護師とのカンファレンスで、同じ目標感をもって接することができる点。
- ・十分とはいえないが、果たしている。PTにより偏りすぎていると思うことがある
- ・どこまでのが保育士の業務なのかあまり把握できていない
- ・子どもを寝かしつけたり、食事をあげたり ミルクをあげたりすることが難しい子の面倒をみってくれる
- ・泣いている子がいる時にすぐその子のところに行ける
- ・児のストレス発散、なかなか忙しく、児と遊んであげられない時に
- ・子どもとの関わりの上で
- ・清潔ケア等の協力
- ・子どもたちが悩んでいる時に遊んでもらっている
- ・役割 責任が不明確。専門性が理解しづらい。
- ・カンファレンスなどのときに保育士からの視点でPt、Faをみて意見をくれる
- ・日々のカンファレンスに参加し、Nsからだけでは不足している視点を共有できる
- ・保育士は看護師とは異なり、子どもの関わり方のプロであるため成長に合わせた関わり方を看護師以上にできていると感じる
- ・Nsとの連携がうまく働いていなく、必要に応じて、保育士の援助を頼みたいときに、保育士は保育士での目標があり、それを達成させようとしており、入院をしている病棟での保育士の役割をもう少し現場にあったものにしてほしい
- ・知的 運動発達が正常もしくはそれに近い子どもへの関わりが主で、反対の子供には少なく感じるため

- ・遊びの提供や児の様子観察は十分にしてくれている。
しかし、Ns 側の情報共有しようとする姿勢が不足していると思う
- ・日々の関わりの中で、保育士とのコミュニケーションが足りず、お互いがやっていることの伝達が足りないため
- ・子どもをあやしてくれる
- ・親と離れ、治療を受けることは、児にとっては精神的負担が大きい。その中で、遊びを提供してくれる存在は児にとっても、また親にとっても大きいと思う。
- ・Ns が業務を行っている間子どもをあやしてくれる
- ・必要に応じてミーティングの要望あり。児のカンファレンスにも積極的に参加している。ちょっとした児の変化を Ns より早くにキャッチしてくれる。
- ・入院中の児たちが回復期に楽しそうに遊ぶ姿が日常的にみられることから
- ・人での不足している看護師の業務のうち、いくらかを保育士に任せることになっており、本来の業務 役割に十分従事できていないと思います
- ・子どもたちが楽しそうにしていることを見て
- ・経験値が高い保育士は、こちらかが求めている病院生活では、では、やりきれない育児支援に貢献してもらっていると思う。病気治療だけだと社会性や協調性は育たないから、退院したあとに共同生活が送れなくなることがある。患児に母がびったりくっついていると母の心が疲弊してしまう。保育士がいることで安心して子と離れて十分な休息がとれて、心が広がる。ビリビリしやすいので、退院後に倒れる（体長を崩す）親が多いので

【心理士】

期待される役割

- ・児や親への精神的サポート、医療スタッフが児や親にアプローチする方法
- ・専門的な視点で、児の側面を探ることは大切だとも思います。
- ・児 家族の心理面での関わり
- ・心理士の介入を要する、子どもたちが多くなっているように思えるため、目にみえない問題をみいだしていけたらよい
- ・児の精神的なフォロー
- ・心理的なもの、精神的なもの、児・家族への関わりかた
- ・心理面でも大切であるため
- ・現状通りでよい
- ・心理的に必要な関わりが子供たちとどのように接するのか困ったとき
- ・精神的援助に関して指導してもらいたい
- ・心理状態により 患者の疾患や生活におよぼす影響を把握できる。または、それを共有し必要なケアを導ける

- ・看護師 医師だけでは子供に踏み込んでいくにも（時間が取れず）限度があるのか？
と思うことがあり、心理士が介入して下さることで、子どもも心を開くように思います
- ・心理士が必要時、児と親に対してすぐに対応してくれているので
- ・心理面への援助 スタッフ教育 相談
- ・現代社会に成長していく子供のストレスの緩和（共働き、核家族、離婚社会 など）
入院によるストレスの緩和
- ・障害児やターミナル期の児をもつ親のストレスの緩和
- ・日常生活、自宅、家族、との関わりに困っている児は多いと考える。その子供たちへのアプローチ・家族と話をする。その中で、周囲がどうかかわるべきか などを提案してほしい
- ・入院期間が短いと、なかなか、ケアまで終わらない。外来でのフォローが必要になることも多い
- ・心のストレスに悩む子供の入院で、どう対処してよいか、大騒ぎをしていたことがある。なんでも、だれかに責任をおしつけるだけで、自分でお対処していこうとしないスタッフがが多かった。子供のためでもあるが、スタッフの教育に大変貢献してもらい、治療（疾患の）に専念すべきだと思うから
- ・インテーク。心理療法。WISCなどの心理テスト。
- ・家族関係に問題のあるケースや発達障害のケースで 家族や児との関係を円滑にしていただけるインタビューの技術にもすぐれておられるので、我々が聞き出せない微妙な問題も聴取していただけることがある
- ・心理的要因のからむ児や長期間入院を与儀なくされる児とそのほご保護者のメンタルケア
- ・心のケア 親のケア
- ・病気が長期になると、親も思いつめ、子どもがそれに感化して、心身ともに悪影響がある。こころのやまいから身体的疾患に子どもはなりやすい。現在それをどう対処していくかの医師看護師の教育場面にプロトコールなし。教育授業なし。子供の支援も大事だが医師看護師の教育をしてもらいたい

果たしている役割について

- ・あまりかかわる機会がないので、十分といえるか分からないが、問2の役割を話している中で感じた
- ・ナースには言えないことや心理的なサポートを期待。
- ・児 家族の不安などの心理面での関わりが良好であった
- ・具体的なかかわりを一連のながれとして見たことがないため
- ・心理的なもの、精神的なもの、児・家族への関わりかた
- ・かかわったことがない

- ・協力的であるので
- ・心理カンファレンスがよい
- ・コラボレーションできていない
Ptに対してどのような関わりをしているのかわからない
- ・問題共有が出来ていると思うが、入院時のNsサイドの情報収集不足で依頼が行われずENTとなり、すぐ再入院となってしまったことがあった（心理的問題で）
- ・心理士の行動が全てです
- ・上記のべたように、すぐに対応しているので
- ・心理士が不足している（人数がもっといれば外来と病棟各々に常在できると思う）
- ・適宜関わりをもち、わかりやすく かかわっていると思う
- ・上記のようなケースで効果的に介入していただいているが、今後このようなケースはますます増加すると思われるので

[作業療法士]

期待されている役割について

- ・遊びを通しての機能維持 回復
- ・Nsへの勉強会もしてほしい
- ・Nsと連携をとって在宅で家族が提供できるような体制づくり
- ・リハビリ
- ・リハビリを要する児へのリハビリテーション
- ・リハビリなど
- ・果たしている役割について
- ・人数が少ないのでほとんど病棟に来ないので
- ・必要に応じ情報共有できる
- ・ベッドサイドに足を運んでくださり、リハビリを行ってもらっています
- ・作業療法士との連携があまりないので作業療法士の方が、小児科病棟に対して何をしてくれるのかわからない
- ・連携不足（どのようなマッサージをしているか、親御さんがいる時に これの方が在宅にむけていくにはよいのに 話合えない）
- ・リハビリ
- ・児にとってははたしていると思いますが
- ・資格としてあるのだからたよりになる存在なんだろうと漠然と思う

[CLS]

期待される役割について

- ・入院～退院までの精神サポート

- ・小児の全人的な成長を支える
- ・児の入院生活を楽しいものにしてくれる
- ・子どもの生活支援、遊びも含めて環境を子供のことを考えたものにする
- ・プレバレーション。病気をもつ児本人および親への心理的不安への対応
永眠された児の両親への対応（心理的ケアなど）

【子どもの心の診療に対する自由記述】

- ・長期入院しそう や している、入退院を繰り返している児へ（必要な場合親も）まず一度話をし、何か問題をかかえているのか、児と心理でかかわってほしい
- ・それぞれ児が抱えている悩みや不安があるので、ここに関わる人材が必要だと思います
外科系疾患に対しては早めに心の診療 心理士のかかわりが必要だと思います。
内科系疾患であってもずっと付き合っていく（疾患）事を考え、心理士の関わりが重要となってくると思います
- ・小児科において心理士の方の協力がとても心強いので、私たち（Ns）に対しても心理士から、気づいたことなどがあればアドバイスをください。
- ・勉強会をしてほしい。心理面への介入や考え方、とらえ方についてなど
- ・Ns も もっと心理療法の方法を学ぶべきである。私はこれから独学で学びます。チャンスがあれば、大学に行きたいと思います。子供たちのストレス緩和のために頑張ってください
- ・心の診療を必要とする子どもたちは増えてくると思われる。今後一緒に考えていけるといいと思います。
- ・ニーズはあるので、適切な人員の供給があればよいと思います
- ・開放病棟で、スタッフの意識も高くありません（急性期身体疾患を診る病棟のため）
そのような状況でも Autism や AD/HD に併発した肺炎、リウマチ性疾患などを診ています。時折 児があばれてしまったり、児（心の診療に関して対応の必要な）への話しかけ方、や対応がスタッフ間でバラバラだったりします。わかる範囲での個別対応をしていますが、当院のような、専門スタッフのいない身体疾患中心の開放病棟で、こういった児と診療してゆくにあたり、必要最低限 Ns やコメディカルスタッフの対応マニュアルのようなものがあるとうれしいです
- ・非日常の生活に、体調の悪い時に入り込むことで、大なり小なりメンタルストレスを感じる子どもは多いと思います。医療者としては、「Dr.だから」「Ns. だから」というストレスを軽減させるよう努めるべきと思っはいますが、条件反射的にストレスを感じる児は多く、そこのすきまをうめる といつか、ケアに関わってくれるスタッフには感謝しています
- ・身体的疾患と心理面での病が結びつく事例が最近多いと思うが、医師、看護師には、

理解されないことが多い。ぜひもっと多くの人に理解してもらえよう幅広い活動とインフォメーションをしてもらいたい。日本では、心のストレスは、精神疾患（分裂病やうつ病など）と同等だと考えられがちで、「くさいものにはふた」的意見が多いので、理解してもらえないことが、とても治療の障害物になっているので

付録3

チャイルド・ライフ・スペシャリストの業務等に関するアンケートへのご協力をお願い

私は、国立成育医療センター心の診療部の奥山真紀子先生が主任研究者をつとめる「子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究」(厚生労働科学研究)で、分担研究として「コメディカルスタッフの専門的育成に関する研究」をすすめています。子どもの心の診療において、心理士、保育士など、コメディカルスタッフの果たすべき役割はたいへん大きいはずですが、小児医療機関には十分な配置がなされておらず、またこれらの職種の養成にも問題があると思われます。これまで、保育士、心理士、作業療法士について調査を行ってきましたが、チャイルド・ライフ・スペシャリスト (CLS) については取り上げてきませんでした。CLS は子どもの心の診療において重要な役割をはたすと考えられますが、他の職種に比べて、配置されている人数も少なく、認知度も低いように思われます。そこで、今回、CLS の業務や認知されるための方策などについて、ご意見を頂戴したく、本アンケートへのご協力をお願いするしだいです。お忙しいところお手数をおかけいたしますが、趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

なお、本アンケートでは、個人的な事柄 (ご意見、ご経験など) をお伺いしますが、統計処理され、特定の方のご意見が公表されることはありません。また、調査への協力 (全部または一部) の有無はまったく自由です。

調査結果は、厚生労働科学研究報告書に報告するとともに、関連する学会で発表する予定です。またご協力いただいた医療機関には報告書を送付いたします。

なお、本調査は日本チャイルド・ライフ研究会調査研究委員会のご理解を得て行うものです。

連絡先

庄司順一 (日本子ども家庭総合研究所・青山学院大学) shoji@aiiku.or.jp

FAX 03-3473-8408

回答の仕方

選択肢については原則として当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。ただし、(いくつでも) となっている場合には、当てはまるものすべてに○をつけてください。ご意見を記入するところでは自由にお書きください。

返送について

ご記入いただいた調査票は、2月4日までに、同封の返信用封筒でお送りください。

I あなたご自身について

1. あなたの CLS 資格取得について

どの国で学びましたか 1 アメリカ 2 その他 ()

資格取得後の年数 () 年

2. 現在の勤務について

現在の病院での勤務年数 () 年

病院での所属 1 看護部 2 その他 ()

勤務形態 1 常勤 2 非常勤 3 その他 ()

あなたが対象とする子どもの数 (子ども病院なら病床数、総合病院なら小児病棟の病床数) () 人

あなたが勤務する病院における CLS の数 (あなたを含めて) () 人

あなたが勤務する病院における以下の職種の配置 (非常勤も含む) の有無 (お分かりの範囲で)

保育士 1 あり 2 なし

心理士 1 あり 2 なし

作業療法士 1 あり 2 なし

MSW 1 あり 2 なし

小児専門看護師 1 あり 2 なし

音楽療法士 1 あり 2 なし

3. あなたは CLS 以外にどのような資格をお持ちですか (いくつでも)

1 看護師 2 保健師 3 助産師 4 保育士 5 臨床心理士

6 その他 ()

4. CLS 資格取得前の学歴・専門

1 専門学校・短大卒 2 大学卒 3 大学院卒

(学部・学科・専攻など) ()

5. CLS を知ったのはどのようなことからですか

6. CLS になったのはどのような理由、動機からですか

II あなたのCLSとしての業務について

1-1. あなたが行っている業務に○をつけ(いくつでも)、その中で主なものを3つ選んでください。(他職種とほぼ共通の項目)

- 1 乳幼児健診
- 2 発達専門健診(低出生体重児の外来でのフォロー)
- 3 低出生体重児のフォローにおける発達検査・知能検査の実施
- 4 その他外来・病棟での心理検査(知能検査、投影法検査)
- 5 育児指導
- 6 親へのカウンセリング
- 7 子どものプレイセラピー・心理療法
- 8 親子合同面接
- 9 家族療法
- 10 プリバレーション
- 11 同僚・若手へのスーパービジョン
- 12 他の専門職へのコンサルテーション
- 13 グループワーク
- 14 病棟での活動(子どもとの遊び)
- 15 隔離室での子どもの保育
- 16 重症室・クリーンルームでの子どもの保育
- 17 他機関との連絡調整
- 18 ケース会議への参加
- 19 病棟運営などに関する会議
- 20 その他()

上記のうち、主な業務3つの番号を記入してください…() () ()

1-2. あなたが行っている業務に○をつけ(いくつでも)、その中で主なものを3つ選んでください。(CLSに比較的固有と思われる業務)

- 1 発達段階のアセスメント
- 2 ストレスのアセスメント
- 3 コーピングのアセスメント
- 4 セラピューティック・プレイ
- 5 メディカル・プレイ
- 6 プリバレーション
- 7 診察・検査・処置中の子どもへの心理的援助
- 8 診察・検査・処置中の子どもの保護者への心理的援助
- 9 病気や治療の理解・受容を支援する心理社会的介入と教育
- 10 学校復帰支援
- 11 病気の子どものきょうだいへの心理社会的援助
- 12 ターミナル期の子どもへの心理社会的サポート
- 13 グリーフ・ケア
- 14 医療スタッフとのカンファレンス
- 15 子どもが主役となれる病院環境や病院設備の整備・実施

- 5 重症心身障害・脳性まひ () → < >
 6 その他の神経・筋疾患 () → < >
 7 摂食障害 () → < >
 8 睡眠障害 () → < >
 9 排泄障害 () → < >
 10 虐待 () → < >
 11 心身症 () → < >
 12 その他の各疾患 () → < >
 13 ターミナルケア () → < >
 14 疾患が子どもの心に及ぼす影響 () → < >
 15 入院が子どもに与える影響 () → < >
 16 子どもの入院が親に与える影響 () → < >
 17 子どもの入院がそのきょうだいに与える影響 () → < >
 18 薬物の作用 () → < >
 19 麻酔 () → < >
 20 手術 () → < >
 21 放射線 () → < >
 22 医療制度 () → < >

4. 他の職種との連携の状態

- 1) 医師との連携 1 良好 2 あまり良好でない 3 良好でない
 →あまり良好でない、または良好でないとお答えの場合、その理由は
 ()
- 2) 看護師との連携 1 良好 2 あまり良好でない 3 良好でない
 →あまり良好でない、または良好でないとお答えの場合、その理由は
 ()
- 3) 心理士との連携
 1 良好 2 あまり良好でない 3 良好でない
 →あまり良好でない、または良好でないとお答えの場合、その理由は
 ()
- 4) 保育士との連携
 1 良好 2 あまり良好でない 3 良好でない
 →あまり良好でない、または良好でないとお答えの場合、その理由は
 ()

5. あなたは、現在の業務にどの程度満足していますか
- 1 非常に満足している 2 ある程度満足している
3 あまり満足していない 4 まったく満足していない
- いずれのお答えであっても、その理由は

6. 現在、研修の機会は十分にありますか。またどのような研修を希望しますか。
- 研修の機会の有無
- 1 研修の機会は十分にある 2 研修の機会はある程度ある
3 研修の機会は少ない 4 研修の機会は非常に少ない

どのような研修を希望しますか

7. 院内の他職種から依頼を受けることはありますか。依頼を受けることがある場合、どのような内容の依頼が多いですか。

8. CLS はまだ広く認知されているとはいえないと思われませんが、CLS を広く知ってもらい、多くの病院に配置できるようにするには、どのようなことが必要だとお考えですか。

ご協力ありがとうございました

付録4

アンケートへのご協力をお願い

私は、国立成育医療センター心の診療部の奥山真紀子先生が主任研究者をつとめる「子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究」(厚生労働科学研究)で、分担研究として「コメディカルスタッフの専門的育成に関する研究」をすすめています。子どもの心の診療において、心理士、保育士など、コメディカルスタッフの果たすべき役割はたいへん大きいはずですが、小児医療機関には十分な配置がなされておらず、またこれらの職種の養成にも問題があると思われます。そこで、子どもの心の診療を担うコメディカルスタッフのあり方について、医師 看護師の立場からのご意見を頂戴したく、本アンケートへのご協力をお願いするしだいです。お忙しいところお手数をおかけいたしますが、趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

なお、回答は無記名で結構です。データは統計処理され、特定の方のご意見が公表されることはありません。

調査結果は、厚生労働科学研究報告書に報告するとともに、関連する学会で発表する予定です。またご協力いただいた医療機関には報告書を送付いたします。

連絡先

庄司順一 (日本子ども家庭総合研究所・青山学院大学) shoji@aiiku.or.jp

FAX 03-3473-8408

松寄くみ子 (昭和大学医学部小児科) kmatsu@symphony.plala.or.jp

回答の仕方

回答は、原則として一つの選択肢に○をつけてください。また、あなたのお考え、ご意見をうかがう項目では自由にお書きください。

はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます

1. 職種

- 1 医師（専門 _____）
2 看護師
3 その他（ _____）

2. 年齢

- 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代

3. 現在勤務されている医療機関の種類

- 1 大学病院 2 総合病院 3 小児病院
4 その他の医療機関（ _____）

4. 現在の勤務先（医療機関）での勤務年数

- 1 1年未満 2 1年～3年未満 3 3年～5年未満 4 5年～10年未満
6 10年～20年未満 7 20年以上

5. 医師あるいは看護師となつてからの勤務年数の合計

- 1 1年未満 2 1年～3年未満 3 3年～5年未満 4 5年～10年未満
6 10年～20年未満 7 20年以上

I 小児科病棟における保育士について

1. 小児科病棟において保育士と協働したことが

1 あった（または、ある）

→① a 日常的に b 必要に応じて

→② a 連携は良好であった b 連携はあまり良好ではなかった

2 これまでなかった（または、ない）

2. 小児科病棟において保育士がはたす役割は

1 非常に大きい 2 やや大きい 3 それほど大きくはない

→上記で1または2と答えた方

主にどのような役割を期待されますか？

3. 保育士は期待される役割を

1 十分果たしている 2 あまり果たしていない

→1あるいは2と答えた方いずれも、主にどのようなことからそのように感じられますか

4. 保育士の配置されている人員数は

1 適切である 2 不足している

II 小児科病棟における心理士について

1. 小児科病棟において心理士と協働したことが

1 あった（または、ある）

→① a 日常的に b 必要に応じて

→② a 連携は良好であった b 連携はあまり良好ではなかった

2 これまでなかった（または、ない）

2. 小児科病棟において心理士がはたす役割は

1 非常に大きい 2 やや大きい 3それほど大きくはない

→上記で1または2と答えた方

主にどのような役割を期待されますか？

3. 心理士は期待される役割を

1 十分果たしている 2 あまり果たしていない

→1あるいは2と答えた方いずれも、主にどのようなことからそのように感じられますか

4. 心理士の配置されている人員数は

1 適切である 2 不足している

Ⅲ 小児科病棟における作業療法士について

1. 小児科病棟において作業療法士と協働したことが

1 あった（または、ある）

→① a 日常的に b 必要に応じて

→② a 連携は良好であった b 連携はあまり良好ではなかった

2 これまでなかった（または、ない）

2. 小児科病棟において作業療法士がはたす役割は

1 非常に大きい 2 やや大きい 3 それほど大きくはない

→上記で1または2と答えた方

主にどのような役割を期待されますか？

3. 作業療法士は期待される役割を

1 十分果たしている 2 あまり果たしていない

→1あるいは2と答えた方いずれも、主にどのようなことからそのように感じられますか

4. 作業療法士の配置されている人員数は

- 1 適切である 2 不足している

IV チャイルドライフスペシャリストについて

1. あなたはチャイルドライフスペシャリストについて知っていますか

- 1 その資格や業務などについてよく知っている
2 その資格や業務などについてある程度知っている

→1または2に○をつけた方は、どこでこのことを知りましたか（あてはまるもの
にいくつでも○を）

- a 看護学校などで養成段階で
b 卒後の研修会などで
c 勤務した病院で
d 図書、雑誌、ニューズレターで
e その他

()

3 チャイルドライフスペシャリストということばはきいたことがあるが、その資格
や業務については知らない（→Vにすすんでください）

4 チャイルドライフスペシャリストということばは聞いたことがなかった
（→Vにすすんでください）

2. 小児科病棟においてチャイルドライフスペシャリストと協働したことが

1 あった（または、ある）

→① a 日常的に b 必要に応じて

→② a 連携は良好であった b 連携はあまり良好ではなかった

2 これまでなかった（または、ない）

3. 小児科病棟においてチャイルドライフスペシャリストが果たす役割は

1 非常に大きい 2 やや大きい 3 それほど大きくはない

→上記で1または2と答えた方

主にどのような役割を期待されますか？

4. チャイルドライフスペシャリストは期待される役割を

- 1 十分果たしている 2 あまり果たしていない

→1あるいは2と答えた方いずれも、主にどのようなことからそのように感じられますか

5. チャイルドライフスペシャリストの配置されている人員数は

- 1 適切である 2 不足している

V 病棟での子どもの心の診療に関して、ご意見があればご自由にお書きください

ご協力ありがとうございました

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

（主任研究者 奥山真紀子）

分担研究報告書

虐待ケースの診療の標準化に関する研究

分担研究者	杉山登志郎	あいち小児保健医療総合センター
研究協力者	海野千畝子	あいち小児保健医療総合センター
	森本武志	あいち小児保健医療総合センター
	河邊千畝子	あいち小児保健医療総合センター
	中島真由美	あいち小児保健医療総合センター
	大舘庸子	あいち小児保健医療総合センター
	藤田三樹	あいち小児保健医療総合センター
	垣内真次	あいち小児保健医療総合センター
	小山内文	あいち小児保健医療総合センター
	虫賀智子	あいち小児保健医療総合センター
	伊藤 環	あいち小児保健医療総合センター
	林 義晃	あいち小児保健医療総合センター
	大石 聡	大阪府立精神医療センター松心園
	柴田真理子	大阪府立精神医療センター松心園
	山口日名子	大阪府立精神医療センター松心園
	岩城 大	大阪府立精神医療センター松心園
	宮口幸治	大阪府立精神医療センター松心園
	花房昌美	大阪府立精神医療センター松心園

研究要旨

子ども虐待への医療機関を核とした取り組みを、子ども虐待治療センターとして働く、あいち小児保健医療総合センターにおける子どもと親への治療、病棟におけるコントロールルームの活用、性的安全の為の病棟での取り組み、同じく病棟での暴力的噴出に関する取り組みの4つの研究を行った。ついで子ども虐待に取り組む小児センターである大阪府立松心園の統計を元に検討を行った。発達障害および学習障害へのケアが必要であること、愛着の修復が必要であること、解離への対応が必要であること、破壊的行動障害や非行への対処が必要であること、親もまた被虐待の既往を持つものが多く、対応には高度の専門性を必要とする例があることを指摘した。性的虐待